視察等報告（復命）書

三次市議会議長　様

報告者氏名　宍　戸　　稔

下記のとおり、研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名　宍戸　　稔
経理責任者氏名　山田真一郎

期　　間	令和６年５月３０日～３１日
用 務 先	東京都　明治大学アカデミーコモン　ホール
用　　務	第１６回日本自治創造学会研究大会

概要

全体テーマ「個性と魅力ある自治体づくりに挑戦する」

講演「地方自治体の目指す道」
吉川　洋（東京大学名誉教授・財務省財務総合政策研所名誉所長）
講演「個性ある自治体づくり」
牛山久仁彦（明治大学政治経済学部教授）
講演「政策議会の理論と実践」
土山希美枝（法政大学法学部教授）
講演「新たな地方議会の創造“議会からの発信”」
江藤俊昭（大正大学地域創生学部教授）
講演「賢く収縮するまちづくり」
青野高陽（岡山県美咲町長）
講演「デジタル導入の価値を考える」
河野太郎（デジタル大臣・衆議院議員）
講演「今、求められる子どもの自殺予防」
新井　肇（関西外国語大学外国語学部教授・）
講演「地方自治体と防災ＤＸ」―令和６年能登半島地震を踏まえて―
臼田裕一郎（国立研究開発法人防災科学技術研究所 総合防災情報センター長）
講演「住民目線のまちづくり“都市の正義が地方を壊す”」
山下祐介（東京都立大学人文科学研究科教授）

■参考とすべき事項

●地方自治体の目指す道

イノベーションというのは、それぞれの地域、自治体のニーズ、問題は個別であって、そうした問題を解決するためのアイデアである。イノベーションは別の言い方をすればアイデア、ヒラメキであり、それは草の根にある。地域の問題を一番よく知っているのはその地域の人であり、アイデアもヒラメキもそこから生まれる。それを実現させるまでに至っていない。新しい事の芽（アイデア、ヒラメキ）をつぶすのではなく後押ししていくことが必要である

●個性ある自治体づくり

自治体が主体的に地域社会をつくり、行政運営をしていくためには計画というものが大切であり、総合計画がそれである。策定段階の取り組み方で、市民を巻き込んだ色々な議論を踏まえての計画づくりで基本構想、基本計画、実施計画での運営のやり方。基本構想を定めて、毎年実施計画を作成し予算審議を行い議会で決めるというやり方で、毎年中期的な方針を見直すことを可能とする計画に幅を持たせて、時代状況に応じて柔軟に対応していくやり方。「議会参加員」をつくって住民の中から議会に参加していく、公募の住民の皆さんが集まって議員と年二回ワークショップをやって議会の在り方を議論する。

●「政策議会の理論と実践」

議会、議員が何をやっているか分からない。わからない人の処遇を上げようとするか。定数報酬の問題は定数報酬の問題ではない。議会や議員という存在に対する、市民の理解と評価の問題と捉えるべき。定数を減らせばいいという話となるではなく、そのことが市民とまちの政策や制度の課題の中で活動するする人がじわりじわりと減っていくことで、距離も遠くなるから議員や議会がまた見えなくなる。そういう悪循環に繋がる。議会や議員はどういう存在だと思ってもらいたいのか、議会や議員はどういう存在だと理解されたいのか。開かれた議会というのは、成果とその成果を出すプロセスが市民に見えて、そこに関われると行くことではないか。

●新たな地方議会の創造「議会からの発信」～住民自治の根幹としての議会の作動

総合計画をしっかりチェックするためには、決算にそれが表れる。決算をしっかりやるためには決算議案が提出されてからではあまりにも遅すぎる。であれば、６ 月定例議会からしっかり準備する。

●賢く収縮するまちづくり （青野高陽 岡山県美咲町長）

「こどもの笑顔はみんなの幸せ」を合言葉にベビーファースト宣言と、こども応援サポーター宣言を行い、子育て対策に力を入れる。子育て支援策は 1,740 あり市区町村の中で 全国４位。行政改革の取り組みは、行財政改革審議会を設置し、様々な意見を聞いている。非効率 な公共施設の削減の取り組みを進めているが、ただ削減するのではなく将来を見据え、残すものは残す。場合によっては更に充実させていく統合していくことを行っている。 現在建設中の多世代交流施設などは複数の施設を統合（図書館、公民館、保健センター 物産センター、町役場）し充実させ

ている。公有財産マネージメント（公共施設の維持管 理等）を推進している。推進するにあたり、施設カルテを作成し、それぞれの施設の現状 参考様式第７号 を一目でわかるようにしている。小規模多機能自治組織の取り組みを行っている。

●今、求められる子どもの自殺予防（新井 肇 文科省いじめ防止対策協議会座長）

近年、中高年の自殺者数は減少しているが、中学生、高校生の自殺者が増えている。 子どもの自殺の要因は複合的な要因が絡み合っている。小学生は家庭の要因が大きい。 中学生、高学生は学業成績不振などの学校での要因が大きい。いじめが要因の自殺の割 合は小さい。子どもは、自殺を考えてから実行までの時間が短いのも特徴。衝動的に自殺 に向かうことがある。 孤立、喪失体験なども要因として挙げられる。地域や学校でのサポートが必要。学校だけで自殺を防ぐのではなく、地域全体で子どもたちを支える仕組みづくりが必要であり、 社会に開かれた学校づくりが必要である。

■提言・活用策

◆地方自治体の目指す道

若い方が新しいことにチャレンジしやすい仕組作りの必要性。起業、創業サポートを充実させること。

◆個性ある自治体づくり

自治体の個性と住民意識、或いは行政・議会の考え方を踏まえての計画書の作成。

「議会参加員」をつくって住民の中から議会に参加していく、公募の住民の皆さんが集まって議員と年二回ワークショップをやって議会の在り方を議論する。

◆新たな地方議会の創造「議会からの発信」

決算をしっかりやるためには決算議案が提出されてからではあまりにも遅すぎる。であれば、６月定例議会からしっかり準備する。

◆賢く収縮するまちづくり

縮小社会においては、より自治振興区単位での活動が重要になってくるので、振興区の活動を活発化させていくことが必要である。

様式２号

視察等報告（復命）書

三次市議会議長　様

報告者氏名　保実　治

下記のとおり，視察が終了したので報告します。

会派代表者	宍戸 稔	経理責任者	山田真一郎

視察議員	
期間	2024年5月30日（　）～2024年5月31日（　）
視察先	財団法人日本自治創造学会
視察用務	日本自治創造学会研究大会
視察先対応者	
概要及び所見	1日目 1.国と地方の基本的課題 ①講演「地方自治体の目指す道」 講師　吉川　洋（東京大学名誉教授・財務省財務総合政策研究所名誉所長） ・日本経済はかく停滞している。GDPも世界2位から3位へと後退。企業は利益をため、労働者の賃金は上がらない状況が続いている。 ・日本の財政は危機的な状況。 2.①講演「個性ある自治体づくり」 講師　牛山　久仁彦（明治大学政治経済学部教授） ・地方と大都市の格差拡大。 ・財源を地方へ一括移譲しなくてはいけない。 ・地方は個性ある政策を、うちだす、ひつようがある。

様式２号

視察等報告（復命）書

三次市議会議長　様

報告者氏名

下記のとおり，視察が終了したので報告します。

会派代表者		経理責任者	

視察議員	
期間	年　月　日（　）～　年　月　日（　）
視察先	
視察用務	
視察先対応者	
概要及び所見	3、新たな地方議会をつくる。 ①講演「政策議会の理論と実践」 講師：土山希美枝（法政大学法学部教授） ・議会の現状に対する市民の感心度の問題。二元代表制が機能しているか、議会での成果等が市民に見えることが肝かれた議会である。自治体の適正制御に責任を持つ政策主体としての議会のあり方を政策議会と呼ぶ。 ②講演「新たな地方議会の創造『議会からの発信』住民自治の根幹としての議会の作動」 講師：江藤俊昭（大正大学地域創生学部教授） ・政務活動費支給の制度により、議会の調査研究の充実が図られ議会・議員をめぐる議論や研究は盛んになった。議会は成長を続ける。提案型議会であることの市民への理解度。

様式２号

視察等報告（復命）書

三次市議会議長　様

報告者氏名

下記のとおり，視察が終了したので報告します。

会派代表者		経理責任者	

視察議員	
期間	年　月　日（　）～　年　月　日（　）
視察先	
視察用務	
視察先対応者	
概要及び所見	4. 発想を変えた地域づくり ◎講演：「賢く収縮するまちづくり」 講師：青野 高陽（岡山県美咲町長） ・人口減少率で、岡山県内第1位。 ・行財政改革により、コンパクトなまちづくりを目指す。公共施設の統廃合を進め、コンパクトなまちへの再編。子ども達には、他の自治体にない支援を集中的に行う。

様式２号

視察等報告（復命）書

三次市議会議長　様

報告者氏名

下記のとおり，視察が終了したので報告します。

会派代表者		経理責任者	

視察議員	
期間	年　月　日（　）～　年　月　日（　）
視察先	
視察用務	
視察先対応者	
概要及び所見	2日目. 1.デジタルで地方を変える。 講演「デジタル導入の価値を考える」 講師 河野 太郎（デジタル大臣・衆議院議員） ・デジタル田園都市国家構想について。補助事業紹介。 2.義務教育の最重要課題 講演「今、求められる子どもの自殺予防」 講師 新井 肇（関西外国語大学外国語学部教授・文部科学省いじめ防止対策協議会座長） ・児童生徒の死因が自殺1位であるのはG7で日本だけ。 ・大人とは異なる死生観。純粋さ、敏感さ、傷つきやすさ。影響されやすさ。自殺と心の病の関係。自殺予防の方向性と具体的展開。危機介入、未然防止。予防教育、事後対応。安心・安全な学校環境。発達指示的生徒指導。SOSの出し方に関する教育。

様式２号

視察等報告（復命）書

三次市議会議長　様

報告者氏名

下記のとおり，視察が終了したので報告します。

会派代表者		経理責任者	

視察議員	
期間	年　月　日（　）～　年　月　日（　）
視察先	
視察用務	
視察先対応者	
概要及び所見	3自治体を守る. 講演「地方自治体と防災DX」 ①令和6年度能登半島地震を踏まえ 講師、台田 裕一郎(国立研究開発法人防災科学技術研究所 総合防災情報センター長) ・能登半島地震以あの危機管理の未達成。孤立を招く、インフラの未整備。インターネット接続の不備。衛星受信の有効性。水道復旧の遅れ。防災に関する地方格差。 ②講演「住民目線のまちづくり、都市の正義が地方を壊す。 講師、山下 祐介（東京都立大学人文科学部教授） ・地方消滅から地方創生へ10年間の検証。 ・東京一極集中は、止まらず、少子高齢化が、すすみ、東京都の出生率は1以下に。地方創生の検証と、過剰都市化、過剰経済化からの脱却が必要。

視察・研修報告（復命）書

三次市議会議長　様

報告者氏名　山村　惠美子

下記の通り，視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名　宍戸　稔

経理責任者氏名　山田　真一郎

期　　間	2024年5月30日~5月31日
用　務　先	財団法人日本自治創造学会
用　　務	日本自治創造学会研究大会

概要及び所見（目的，参考にすべき事項，提言，活用対策）	「個性と魅力ある自治体づくりに挑戦する」 1日目 ◇国と地方の基本的課題 講演「地方自治体の目指す道」 講師　吉川　洋（東京大学名誉教授・財務省財務総合政策研究所名誉所長） 日本経済は長期停滞。イノベーションは著しく後退。GDPも世界2位から30位へ。一方企業の内部留保は上昇。国民の労働者賃金は上がらない。消費の停滞から抜け出せない悪循環が続く。社会保障への不安。財政赤字へも連動。日本の財政は先進国の中で極めて危機的。地方への期待は、事例として、東大和市。子育てしやすい。平均出生率1.5。東京都内1位。観光振興において豊かな自然とグルメ。インバウンドへの積極的なアプローチ。 ◇講演「個性ある自治体づくり」 講師　牛山　久仁彦（明治大学政治経済学部教授） 現状課題として、小規模自治体と大都市の格差拡大。激甚災害対応の格差。自治体の個性を引き出す地方分権（財源移譲含め）を推進する必要がある。個性ある政策を創造しなければ生き残れない。地域の実情にあった議会の実現も不可欠。 ◇新たな地方議会をつくる 講演「政策議会の理論と実践」 講師　土山　希美枝（法政大学法学部教授） 議会の存在に対する市民の理解と評価が課題。意思決定の権限を信託されている。行政と分立した機構として運営されているか。自治体とそれぞれの相互作用によって政策・制度を制御することが成果。成果の過程を市民に見えることが、開かれた議会。自治体の適正制御に責任を持つ政策主体としての議会のあり方を政策議会と呼ぶ。

	◇講演「新たな地方議会の創造“議会からの発信” **住民自治の根幹としての議会の作動」** **講師　江藤　俊昭（大正大学地域創生学部教授）** 地方分権改革と地方財政危機は執行だけでなく、地域を方向付ける政治の重要性が高まった。政務活動費支給の制度改革で議会の調査研究の充実が図られ、議会・議員をめぐる議論や研究は盛んになり、議会自体は成長を続ける。マニフェスト大賞・議会改革ランキング・議会改革白書刊行等、開かれた議会のための手段は拡大している。しかし市民に広く認知してもらうためには、提案型議会であるための経過をいかに市民と共有できるか、議会からの政策サイクルを駆逐しなければならない。質問・質疑の前後。事前の通告調整、委員会代表質問。事後の所管事務調査等、進化すべき。自治体議員と研究者の対話・協働が必要。 **◇発想を変えた地域づくり** **講演「賢く収縮するまちづくり」** **講師　青野　高陽（岡山県美咲町長）** 人口減少率、岡山県で１位。徹底した行財政改革。よりコンパクトなまちづくりを目指す。公共施設の統廃合を進め、コンパクトなまちへ再編。次代を担う子どもたちには他の自治体にない支援を集中的に行う。町民は自分たちで考え、決定する地域の運営を担う小規模多機能自治を実践。

	2日目 **◇デジタルで地方を変える** **講演「デジタル導入の価値を考える」** **講師　河野　太郎（デジタル大臣・衆議院議員）** デジタル田園都市国家構想について。補助事業紹介。 **◇義務教育の最重要課題** **講演「今、求められる子どもの自殺予防」** **講師　新井　肇（関西外国語大学外国語学部教授** **文部科学省いじめ防止対策協議会座長）** 児童生徒の死因が自殺1位であるのはG7で日本だけ。特徴。衝動性。大人から見ると些細に思える動機。死への親近性。大人と異なる死生観。純粋さ、敏感さ、傷つきやすさ。影響されやすさ。自殺と心の病の関係。自殺予防の方向性と具体的展開。 危機介入→未然防止・予防教育→事後対応。 安心・安全な学校環境。発達指示的生徒指導。SOSの出し方に関する教育。想起の問題認識。 **◇自治体を守る** **講演「地方自治体と防災DX」** **ー令和6年度能登半島地震を踏まえー** **講師　臼田　裕一郎（国立研究開発法人防災科学技術研究所　総合防災情報センター長）** 能登半島地震以前の危機管理の未達成。孤立を招くインフラの未整備。インターネット接続の不備。衛星受信の有効性。水道復旧の遅れ。防災に関する地方格差の露呈。 **◇講演「住民目線のまちづくり”都市の正義が地方を壊す“」** **講師　山下　祐介（東京都立大学人文科学部教授）** 地方消滅から地方創生へ10年間の検証。 一極集中は止まらない。少子高齢化。東京都の出生率は1以下に。東京の高齢化が始まる。地方創生の検証が必要だが、PDCAサイクルは回らない。過剰都市

	化、過剰経済化からの脱却が必要。

視察・研修報告（復命）書

三次市議会議長　様

報告者氏名 重信好範

下記のとおり，視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名 宍戸　稔

経理責任者氏名 山田真一郎

機　　関	令和 6 年 5 月 30 日（ 木 ）～ 令和 6 年 5 月 31 日（ 金 ）
用 務 先	明治大学　アカデミーホール
用　　務	第 16 回日本自治創造学会研究大会
概要及び所見（目的,参考にすべき事項,提言,活用策等）	第16回日本自治創造学会研究大会に参加し，デジタル導入の価値を考えることについて元デジタル大臣　河野太郎氏の講演や個性と魅力ある自治体づくりに挑戦の取組について他多くのプログラムで研修しました。デジタル庁の予算メニューも活用してリソースの置き換えを勧めることが本庁にとって課題である。

様式２号

視察等報告（復命）書

三次市議会議長　様

報告者氏名　　山田　真一郎

下記のとおり，視察が終了したので報告します。

会派代表者	宍戸　稔	経理責任者	山田　真一郎

視察議員	山田　真一郎
期間	2024年　5月　30日（木）　～　2024　5月　31日（金）
視察先	明治大学　アカデミーコモン棟３階
視察用務	第１６回２０２３度　日本自治創造学会　研究大会
視察先対応者	(財)日本自治創造学会　理事長　穂坂邦夫
概要及び所見	国と地方の基本的課題 ・地方自治体の目ざす道 吉川　洋　（東京大学名誉教授・財務省財務総合政策研究所名誉所長） ・個性ある自治体づくり 牛山　久仁彦　（明治大学政治経済学部教授） 新たな地方議会をつくる ・「政策議会」の理論と実践 土山　希美枝　（法政大学法学部教授） ・新たな地方議会の創造 江藤　俊昭　（大正大学地域創生学部教授） 発送を変えた自治体づくり ・賢く収縮するまちづくり

	青野　高陽　（岡山県美咲町長） デジタルで地方を変える ・デジタル導入の価値を考える 河野　太郎　（デジタル大臣） 義務教育の最重要課題 ・今、求められる子どもの自殺予防 新井　肇　（関西外国語大学外国語学部教授・文科省いじめ防止対策協議会座長） 自治体を守る ・地方自治体と防災 DX　ー令和６年能登半島地震を踏まえー 臼井　裕一郎　（国立研究開発法人防災科学技術研究所総合防災センター長） ・「都市の正義」が地方を壊す　～地域から少子化論へ～ 山下　祐介　（東京都立大学人文社会学部教授） 考察 この度は、人口減少や過疎化がテーマになっているものが多くありました。人口減少について地方自治体がどう対応していくのか。 具体的な事例も多くあげられ、体験談等もありました。 三次市とは、環境の違いがあるとはいえよく調査をして、取り込むべきものは、早く取り組むべきと感じました。 また、議会についての講演もありました。 一般質問や政策提言について、この度の講演で聞いた内容に比べて、特に、議会と行政との関係については、三次市現状とはかなり、かけ離れたものでした。 良い解決策は、ありませんでしたが、議会により機能させる為にはどうしたらよいかを、引き続き調査を行います。